

理解推進事業

秋の一日を彩る美術作品展が開催

絵やイラストなど作品募集中

毎年11月末から8日間の日程で開催されている多摩市障がい者美術作品展では、市内在住・在勤・在学の方や市内福祉施設に通所している方々から絵やイラスト、書、陶芸、写真、オブジェなどの作品を募集中。応募の際は申込用紙に必要事項を記入し10月10日(金)事務局必着で送付。詳細は事務局まで問合せ。申込用紙は多摩市障害者福祉協会のホームページから取り出せる。

◆事務局

住所：多摩市南野 3-15-1 総合福祉センター3 階
電話：042-356-0308
ホームページアドレス <http://tashokyo.com>

美術展開催概要

- 日程：11月30日(日)～12月7日(日)
- 会場：パルテノン多摩 特別展示室
- 月～金 10時～20時 土日 10時～18時



⊖ 昨年は絵やイラスト、コラージュ、書など計533点が展示された

移動支援事業

ヘルパーを使って楽しくお出かけ

近場でも遠出もOK

サービスを利用するためには市が発行する利用者証の取得が必要。月間で最大利用できるのは、高校生を除く18歳以上50時間、高校生20時間、中学生と小学5、6年生10時間、小学1～4年生5時間。8月には多摩センターの夏祭りや上野の国立科学博物館、お台場イベントなどの遠方までの利用もあった。いつもの商店街での買い物から電車やバスに乗ってのお出かけまで幅広い使い方が出来るので問合せを。



⊖ 7月19日から8月31日までの44日間、お台場のフジテレビ社屋周辺で開催された『お台場新大陸』に行った利用者も!!

資源化センター事業

1日20000本を選別処理

多摩市のリサイクル拠点

資源化センター(エコプラザ多摩)で回収される、びん、缶、ペットボトル、古紙類等のうち、びん類の選別を障がい者の就労作業として行なっている。4月から8月まで65日間325時間稼働。総選別量は467トン強。1日あたり約7000kg、2万本弱を処理している計算だ。3月以降に新規採用された3名を含む、障がいを持つメンバー8名が交替で勤務し、1日平均4名が職員とともに従事している。



⊖ 8月度の総搬入量は約90トン。本数にして約20万本を処理した

⊖ 種類別に異なるライン処理

加盟団体からのお知らせ

アートひまわり
南野 3-15-1 5階 ☎373-8455
NPO 法人あしたや共働企画
諏訪 5-6-3-101 ☎372-3690
NPO 法人暉望
永山 4-2-4-103 ☎389-1234
NPO 法人くぬぎ
永山 3-9 ☎375-2583
NPO 法人どんぐりパン
諏訪 5-6-3-105 ☎371-9236
サンクラブ多摩
南野 3-15-1 5階 ☎356-0308

多摩市視覚障害者福祉協会
聖ヶ丘 1-28-26-103 ☎372-8051
多摩市身体障害者福祉協会
南野 3-15-1 3階 ☎338-7009
多摩市手をつなぐ親の会
聖ヶ丘 1-19-3-304 ☎374-8740
多摩市聴覚障害者協会
聖ヶ丘 1-19-5-201 ☎372-0939
ワークセンターれすと
和田 1870-2 ☎373-8925
※電話番号の市外局番は、042です
(あいうえお順)

体操や音楽で放課後活動 東永山複合施設内くぬぎ

小学2年生から高等部2年生が通所する放課後等児童デイサービス事業くぬぎ。グループ活動を通じ、社会経験を広げることを目標にしている。



⊖ 放課後から17:30までが活動時間だが学校が休みの日は9:30から。8月最後の土曜日には夏祭りで楽しんだ

多摩市障害者福祉協会



つながりを力に、人と人を結ぶ
月刊多障協通信 ルリエ



発行：多摩市障害者福祉協会
多摩市南野 3-15-1 総合福祉センター5階
障害者団体共用室

☎042-356-0308 FAX042-311-2327
ホームページ <http://tashokyo.com>

多障協だより
リニューアル新創刊!

2014年9月25日発行
2014年第1巻第1号

relier

目次

事業報告

協会に求められるもの	1
生活支援センターの一ま	2
障がい者就労支援センター	3
理解推進事業	4
移動支援事業	4
資源化センター事業	4
加盟団体からのお知らせ	4

連載

NEWS	1
今月の花	1
プログラムカレンダー	2
今月のひと口解説	3
現場からの声	3

真の共生・生活社会を目指し 協会に求められるもの

発足から13年。いまこそ協会全体の再構築が求められています。私たちは障がいを持つ人と持たない人が住み慣れた地域とともに暮らす『共生・生活社会の実現』を目指して活動し、それぞれの事業に取り組んでいます。その原動力は障がい児(者)の人権尊重・権利擁護・自立支援の理念を、協会と市民、地域社会の住民全てが正しく理解し、共有することだと考えます。8月下旬には役員と職員が一堂に会し、事業内容と解決すべき課題を確認しました。今後もこのことを常に念頭に置き、日常に埋没することなく、日々の支援活動事業に強い志を持ち、取り組んでいこうと思います。
(理事長・濱田清吉)

今月の花

コスモス



少女の真心、調和、謙虚。連光寺の大谷戸公園では、花言葉どおり可憐に咲くその姿を見ることが出来る。地味だがひたむき。たおやかな風に揺れる薄紅色の秋桜は、やわらかな陽だまりに似て、一日眺めていても飽きることはない。やさしさの内に純真な強さを秘めたその花を秋のいつか、探して歩こう。

NEWS～障がい者が安心して暮らせるまちづくりのために

多摩市では第4期障害福祉計画づくりがスタートした。身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、高次脳機能障がい者、難病患者等を対象に平成27年度から29年度までの3年間の各種サービスの具体的な数値目標や見込み量を定めた実施プランをつくるもので、来年2月頃までに取りまとめる予定だ。居宅介護や相談支援等のサービスを受けやすくなり、サービスそのものを増やしたりするため、これから市民委員会や部会において活発な議論が重ねられる。

※『relier』は「つながり」や「結びつき」を表わすフランス語。人と人、地域と地域をつなげることで真の共生を目指したいという意味を込め、リニューアルした広報誌にこの名前をつけました

4 ※の一まの『HOTほっと』は9月号、本部で発行しておりました『多障協だより』は1月発行の冬号をもって最終号とさせていただきます、今回より2つを統合し『月刊relier』としてリニューアル発行させていただきますことになりました。長い間ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします

プログラム報告



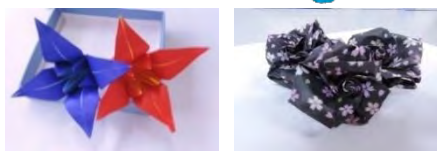
8月23日のコーラスには16名(見学者1名)が参加した。ストレッチと発声練習を行い、課題曲2曲とリクエスト曲として『夜空ノムコウ』『Happiness』『負けないで』『Tomorrow』『時代』『Let it go』を歌った。

歌集をリニューアルして初めての開催だったため、新曲を中心とした曲目構成だったが、参加者の大熱唱で、笑顔の絶えない回となった。

外出プログラムの日程変更

10月29日(水)10:00~15:00の日程で実施

『Hot ほっと』9月号に掲載した日程から変更。
※詳細は別紙参照



折り紙作品 あやめ(左) パラ(右)
フリースペースにて、折り紙作品を製作するTさんの作品。来所の度に披露する新しい作品は、フリースペースに展示してある。

8月相談件数

面接、電話など1231件。リラックス体操が始まったこともあり、プログラム・フリースペース利用は435人と前月より50名ほど増加。また夏休みということで普段来られない方も来所し賑わった。

つむぎ館まっりの開催

10月18日(土)、19日(日)10:00~15:00に健康センターと九頭竜公園で『つむぎ館まつり』が開催される。館内では盆栽や編み物などの展示、屋外ではフリーマーケット、豚汁・フランクフルトなどの模擬店がある。

☆4階の一までは、手相占いや映画上映、水きりえ、アクリルモップづくり、竹とんぼ等を実施。
※当日のお手伝いを募集中。詳細は、の一まスタッフまで。

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3 イブニングタイム 17:30~19:30	4 発達障害相談 10:00~12:00 利用者ミーティング 13:30~14:30
5 休み	6 休み	7	8 福祉こころ相談 10:00~12:00 リラックス体操 14:00~15:00	9	10 イブニングタイム 17:30~19:30	11 映画会 『はやぶさ 遥かなる帰還』 13:30~15:45 (上映時間)
12 休み	13 休み	14 身体障害相談 12:00~15:00	15 スタッフ ミーティング 10:00~12:00	16	17	18 つむぎ館まつり
19 つむぎ館 まつり	20 休み	21	22 福祉こころ相談 10:00~12:00 リラックス体操 14:00~15:00	23	24 イブニングタイム 17:30~19:30	25 コーラス 14:00~15:30
26 休み	27 休み	28	29 外出プログラム 10:00~15:00 集合場所:の一ま	30	31	

一部プログラム お休みのお知らせ
・1日の福祉こころ相談
・17日のイブニングタイム(つむぎ館まつりのため)

季節感あるメニューが完成!!



今年度第4回のテーマは「簡単クッキング」。仕事をして疲れて帰ってきてでもできるメニューとして“冷やし中華”と“冷凍食品を使った一品”を作った。同じ食材でも値段を比較し「こっこのほうが安い！」と電卓を片手に買い物。調理実習では「いつも家でやっているから」と手慣れた包丁さばきのFさん。綺麗なキュウリの千切りが出来上がっていた。多くのメンバーが包丁使いには慣れている一方、火加減の調節など火の扱いは苦手な様子。盛り付けも個性たっぷり仕上げ実食。「美味しい〜」「簡単だったよね〜」の声。栄養バランスのとれた手軽なメニュー、日常にも取り入れてみて欲しい。



①盛り付けにも個性



①いただきます♪

現場からの



「とりあえず家を出てみようと思います」

自宅から駅まで歩いて8分。電車に乗り、さらに20分。その彼は駅前から続く住宅街の一角に建つスーパーで働いている。仕事は経理補助。取引先から回ってきた仕入伝票を、決められたフォーマットに入力するのが日課だ。伝票の束を机の左端に置き、定規を使いずれないように気を付けながら上から順番に数字を拾う。集中力と根気のいる作業だ。10時から始め午後になると、どっと疲れる。翌日行けるか心配になる。朝になっても不安は抜けない。「とりあえず家を出てみようと思います」。彼が最近口にしたことだ。駅に着いたら、とりあえず電車に乗る。乗ったら職場の最寄駅までは行く。行ったら、せっかくだから午前中は働こう。自分に言い聞かせながら半年が過ぎ、今日も彼は、とりあえず家を出た。

生活支援支援プログラムとは

一般企業で働いている知的障害の登録者を対象に、毎月第3土曜日に実施している勉強会。金銭管理やマナーなど就労の基盤となる社会性や生活力を身に付けることを目的としている。

職場や日常生活で想定されるさまざまな課題についての講座のほか工場見学や花見、近隣への旅行など野外活動も実施している。



⑤ 月はバーベキューに出かけた

●実績報告●

7・8月は7人が新規就職
内2名は就労継続A型

月間相談件数は4月が368件、以下373、407、405と推移し8月は282件。就労に関する相談が約95%を占めているが、金銭管理や福祉サービス利用など生活面の相談も4~7月で20件ほどあった。8月も福祉サービス利用等の相談が3件。また、就職前と就職後では3対7の割合。就職者は4月からそれぞれ12、2、3、4。8月は3人が就職した。7・8月の就職者のうち2名は就労継続A型事業所であった。

●今月のひと口解説●

特例子会社とは?

一定の条件を満たしたうえで厚生労働大臣の認可を受け設立された子会社のこと。その子会社に雇用されている労働者を親会社に雇用されているものとみなして、実雇用率を算定できる。

障害特性に配慮した業務の確保や職場環境の整備がしやすく生産性や定着率の向上が期待される一方、業務内容が限定的になる傾向が見られるなどの問題もある。